

午前11時10分再開

○議長（浅尾静二君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、16番実藤輝夫議員の質問を許可します。16番実藤輝夫議員。

（16番実藤輝夫君登壇）

○16番（実藤輝夫君） 16番実藤輝夫でございます。きょうは、12月の師走、お忙しい中に多数傍聴をいただきまして、本当にありがとうございます。

きょうは、今後の朝倉市の財政見直しと大型事業の見直しというタイトル、今後の、将来の朝倉市の展望がどうやって開けていくのか、本当に厳しい状況であるということ、全体の角度から皆さん方にお知らせし、そして執行部とのやりとりを行ってまいります。

今、全体的に国の内外を問わず、その状況の中でつくり上げられたものが、時点見直しといえますか、状況の変化において新たな問題提起がなされながら、見直しがなされております。一旦決めたものは、最後までそれを通せというのも一つの論理でしょう。しかしながら、那邊に問題があり、将来的にその問題が大きな禍根を残すとわかりながらそれを認めていくということが、本当にいいことなんでしょうか。私は、敢然とこの問題に立ち向かっていかなければならない。一つの例として、東京都の今やりとりが、それぞれの皆様方にはお考えがあると思いますが、やはり一つの問題提起をすることによって、見直しというものが、なかんずく、財政状況が潤沢にある場合はともかくも、厳しい状況の中では必須の課題だというふうに思っております。

また、今度のアメリカ大統領選、私も1月にカナダに行って、まざまざと、テレビでしたけども、見てまいりました。今回の特徴は、ヒラリー・クリントンと争ったサンダーソンというのが、その当時74歳、ヒラリー・クリントンは私と同じ年で、現在69歳ですが、トランプが70歳、非常に若き世代よりも経験豊かな世代を求めた、こういう状況を目の当たりにしてまいりました。

くしくも、県が推奨しております70歳代現役社会、これは高齢社会、そして人口減少社会においては、必須の私たちの取り組んでいくべき課題でもあります。私も69歳になりましたが、ますます気力、体力充実していると自分なりには思っておりますので、今後の朝倉市政に対しましても、議会人として頑張ってまいりたいことを心から私自身に決意を求めています。

以下、きょうの通告に従いまして、市長以下、執行部の皆様方に質問をしてまいります。どうかよろしくお願ひ申し上げます。

（16番実藤輝夫君降壇）

○議長（浅尾静二君） 16番実藤輝夫議員。

○16番（実藤輝夫君） 今、登壇して申しましたように、私のタイトルは、憂うべき財政、問われるべき大型事業ということでございます。恐らく議会の私も含めて、今、大きく俯瞰して財政を見、大型事業の財源、その他を見ますと、なかなかわかりにくいところがあ

ります。特に市民の皆様方には、市庁舎の問題だとか、あるいは朝倉農業高校跡地の問題、最近、議会のほうに出てきました秋月中学校移転の問題、その他、特例債を使った事業、これがそれぞれの事業にかかわってまいりますので、一つ一つを審議している私たちにとっては、全体像は見えてない。那邊に問題があるか。これを私はきょうは傍聴に来ていただいております市民の皆様と、そしてまた、現在放映されております中でお聞きになっている市民の皆様、あと録画で見られる市民の皆様方に、でき得る限り、ここが問題なんだと、市はどういうふうにそれを取り組んでいこうとしているかということをはっきりと明かにしていきたいと思っております。

先ほど12番議員からも財政問題が出て、市長は総論的にお答えになりましたが、質問の取っかかりとして、私は資料等いろいろ持っておりますが、市長としての私の財政の今後の見通しと大型事業の見直しという一つのタイトルでもって、市長としてどういうふうにお考えになるかを簡単にお伺いしたいと思います。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） 現在の財政、そして将来にわたっての財政問題について真剣に考えていくということは、非常に貴重なことだし、大事なことだろうというふうに思っています。

そこで、私自身の考え方、ここで憂うべき財政、問われるべき大型事業ということで質問いただきますので、大ざっぱに私の考え方を申し上げますと、個々の事業はそれぞれでございます。例えば、庁舎についてもそうですし、朝農の跡地の活用、利用についてもそうですし、秋月の小中一貫についてもそうです。そういった事業について、一つの考え方として、一つの例をとりますならば、いわゆる体育施設等の問題につきましても、これ、たしか昭和54年ですか、実藤議員が初めて議員として立候補されたとき、たしか体育施設の整備ということを大きく打ち出されて議員に立候補されたのだろうと思っております。

ですから、恐らく実藤議員も私も共通した認識としては、やはり朝倉市にきちっとした体育施設が必要なんだということについては、共通認識としてあろうかというふうに思っています。

あわせて、その後を見ますと、佐藤市政のときに、総合グラウンド計画がございました。しかし、残念ながら、これも市長選挙等の関係もございましたけれども、できずに今日に至っております。

今回の体育施設につきましては（発言する者あり）ちょっといいですか、ですから、そういうこと、後のことについて、また申し上げますが、後の機会に。私としては、今回、もちろん特例債というものもありまして、将来を考えた場合に、今、確かに将来的に多少きつくなる可能性はありますけれども、そういった長年の懸案だったものについて、ましてや、約1万名の方から、市民のほうから、体育施設の整備というのは、署名の要望も出ております。そういったことを考えた場合、私自身もそりゃ必要だと思っておりますので、や

っていくと。

ただし、先ほどもちょっと申し上げましたけれども、やはり将来にわたって、朝倉市民に対する、いわゆるサービスをある一定の質の確保というものをしなきゃならんということになります。これはもう大事なことだろうと。それを考えた上で、今後こういったいろんな大型事業についても、それと両方を兼ね合わせた中で考えていかなきゃならんという思いは持っております。以上です。

○議長（浅尾静二君） 16番実藤輝夫議員。

○16番（実藤輝夫君） 個別の問題は、それぞれにまたやらなきゃいかん問題。きょうは、大型事業の見直しをしないと、将来の朝倉市の地域振興あるいはその他が非常に支障を来してくるということを明らかにしていきたいという形で私は一般質問に立っております。総論は別として、各論から入っております。私も資料を、きょうやるについては、いろいろな財政資料を手元に持っております。みんな市からもらった資料ですので、インターネット、その他で出てきたものではありません。初めから念を押しておきます。

まず、全体的に見ますと、今、特例債を使うからという話で、いつも事業のスピードあるいはこれはやらなきゃいかんという形で論議されておりますが、まず最初に、平成27年、特例債借入額が約90億円、まずこれを認識していただきたい。190億円借り入れができますので、残り100億円です。そこがまず最初に考えておかなければならない。

としますと、今後、事業費としてどれくらいの事業費が見込まれているか。この資料によりますと、庁舎、朝農跡地、秋月小中一貫校事業、他の事業、これは70億円ですけども、これを全部入れますと199億7,300万円、約200億円で話をしてみますが、そのような状況になっております。

さて、これに特例債を使っていくというわけですが、200億円引く、計算が100億円になります。きょうは市民の皆様が傍聴に来られていますので、ゆっくりと数字をきちんと出しながら、具体的な話として持っていきたいと思えます。総論のああします、こうしますはやめましょう。

200億円から現在使える特例債が100億円あります。これをまた充当するとして、この事業を遂行していくためには、国庫の補助が37億円入ってまいります。一般財源から約9億4,200万円、これを充当いたします。差し引きしますと200億円、今のを引きますと146億円になります。200億円から146億円を引きますと54億円になります。先ほどの事業に特例債、その他を入れるのが146億円です。再度繰り返します。そうすると、残りが54億円足りないということになるわけですね。この大型事業を他事業も含めて特例債を含めてやっていくとすると、54億円も足りない。私からすると「も」です。この足りない部分をどうするかというときに、基金取り崩しが40億円、そして他の起債が14億円というふうに示されてきました。これは議会全員協議会で示されましたし、私の一般質問の中でもここを明らかにしてまいりました。

こういった状況の中で、個別的に、先ほどの体育館の問題、市庁舎の問題、秋中の問題と、ほかの他の事業の問題を取り上げてまいりますと、特例債があるから大丈夫なんだというような感覚になっております。最初、私はそう思いました。特例債70%も国庫補助があるんだからと、逆に言うと、30%は借金なんですけどね。しかし、こんなにおいしい交付金ないし補助金はありませんから、これに飛びつかざるを得ない。

しかしながら、今言ったように、54億円も今の計算で足りないというときに、基金取り崩しという形でいって本当にいいのかということになります。私、次から次に資料を持っておりますので、この時点について、まず一つずつ、今、私が述べた54億円も足らなくなるという認識が、市長はどのようにお考えになっているかをお伺いしたいと思います。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） 今言われた数字は、私から出しておる数字でありますんでね、間違いないわけですけども。

ただし、このことについて申し上げる、これはもうこういう形になりますと、非常に将来的に大変ですので、私としては、この庁舎等を含めて、最大限の額で見積もりをしております、現在のその土台になる数字を。今、実際の庁舎の建設等を含めましても、平米単価50万円という非常に高い数字で調査をしています。これが一つのある市の例で言いますと、大体40万円ぐらいでできるだろうということで、そうすると9億円ぐらい減る。それは一つの例ですけども、これはあくまでも先の話で、わかりませんが、その可能性がある。

それから、そのほかのとも非常に精査しながら、予算が極力、私どもが最初提示した額よりも下がるようにということで、今いろんな作業をしておるところでありますんで。その上でどうなるかと、今回、本当に大きな不足分が出るということになれば、やはりそこでまたいろんな形で考えていかざるを得んかなというふうに思ってます。

○議長（浅尾静二君） 16番実藤輝夫議員。

○16番（実藤輝夫君） ちょこちょこした見直しでは、この54億円という数字には半分も満たない。一生懸命やって五、六億円。残り50億円まだ残ります。どこに問題点があるか、よく聞いてください。

基金取り崩し、副市長とは10年来、財政問題をやってきた仲といたしますか、やりとりをしてきたんですが、ほかの議員が質問されるときに、財政問題を取り上げるときには、赤字・黒字は別として、今後の運営については基金というのがあるんだという形のいつも話が出てまいります。

さてさて、その基金というものは何なのかという具体的な話は、この議場ではほとんどありません。ここでその点を私は明らかにしていきたいと思えます。

まず、基金の中には大きく、財調基金、減債基金、さきも出てきましたが、財政運営上足りない、必要な場合に、運用するものと、特定基金と言って、これは市民の皆様方に、失礼ですけども、わかりやすくするために話をしております。行政のほう知らないはず

は、もちろんありませんから。お聞きになっている方もいますので。そのとき、特定基金は目的があるわけです。そこの中にまた2つありまして、今回予定されておる基金取り崩しの40億円の中に、地域振興基金、公共施設等整備基金、スポーツ振興基金、まちづくり振興基金というものがあります。この中から、その財調基金から4億円取り崩しですが、これを外しても、この地域振興基金、先ほどから出る。私の最後の結論はこれです。地域を振興させていくためのものです。ここに皆さん方が所属しております各地区のコミュニティ協議会から出されてきた要望書がいっぱいあります。これを実現していかないかん。みんな地域の人たちはそれを望んでる。そのお金はどうするかという話ですよ。

話を基金に戻しますと、今現在、財調基金は42億円ありますが、4億円、この事業のために取り崩していきますので、38億円です。これが財政見通しの累積赤字につながっていきます。それをどう対応するかですよ。これで大丈夫かという話です。

もう一つ、地域振興基金が現在ありますが、公共施設、その他、この虎の子の基金を今回取り崩すことによって17億4,400万円しか残らない。その他の基金は、これははっきりとひもつき基金ですから、こういう運用はできない。17億4,400万円で将来の朝倉市、10年、20年、先ほどJRとのどうこうって出てきましたね。ただじゃないですよ。可能性があるのはやるんでしょ。国道322のとも含めて、甘木町からの、昔からの都市計画道路、庄屋町交差点のところも必要です。それから、いろんな問題がこれから出てきます。17億4,400万円が多いか少ないか、100%少ないに決まっています。これから私たちは10年後、20年後、この基金を利用してやっていかないけない。もちろん、あと二、三年ぐらいは黒字が出ますので、剰余金を基金に入れるということは可能です。しかし、その後はどうなるかということが、それが1点。

もう一つは、財調基金、減債基金、減債基金も今、財政見通しで出されたものが2億円ぐらい減ってるんですが。財調基金も44億円あったのが42億円、そして数年後、これ32年取り崩しですので、この段階で38億円になります。赤字になってくる、これも一つ、基金がこれだけ下がってくるということは、将来の私たちが望んでいる施策が非常に厳しい、全く金がないという形になってくる可能性が大きい。だから、漠然とした不安ではない、はっきりした不安だということを申し上げておきます。

もう一つは、財調基金の取り崩し、これは恐らく、先ほどから出ておりますけど、具体的に示しましょう。平成32年、これから財政の見通し、これはやりとりをするときは、あくまでも試算ですよと、あくまでもこれから先の運用ですよと言われるけども、少なくとも行政が10年のローリングをしながら、本当は1年1年出していかなきゃいかなんのですが、議会側に出して、理解を求めて、協力を求めていくときの数字が、運用次第ではという話にはほとんどならないんですよ。やっぱりしっかりした財政基盤、財政の状況を把握して、これはつくられてきてるはず。これからこの分析を議会側として本気でやったかと、やってない。

この数字を見て、どこに問題があるか、答えられますか。この問題点を指摘しない限りは、この一覧表を見て、全員協議会で、はあと見て、ざっと説明されただけでは、恐らくわからんだろうと思います。これを財調基金が38億円に31年、32年になるわけですが、この財政見通しからすると、32年以降、毎年3億円前後で赤字が出てまいります。そして、この収入を見ても、非常に厳しい状況になってまいります。32年までは20億円、20億円繰り入れますから、当該年度で23億円ぐらいになります。ところが、33年からは32億円が3億3,600万円なんです。もちろん、投資的経費も、今度は歳出ね、やるほう、これもこの試算表によりますと、35年から現時点で大体36億円、49億円投資しているのにもかかわらず、平成35年から15億円です。15億円という数字が朝倉市の規模においては、投資的経費は大体、30億円は必要です、いろんなものやっていくときに。そうすると、15億円ということになってきますと、半分以下ですよ。これを15億円に抑えても赤字が出るという試算なんですよ。じゃどうするか。これは市長にお聞きします。副市長は何遍もやってるから、体を大事にしてください。財調基金、減債基金からやりますという話なんです、いつまで続きますか。恐らくそのころは、もう森田市長は、ずっとされるかもしれませんが、失礼。しかし、後々にツケが回ってくることは、もうはっきりしている。こういう財政運営になっておる状況の中で、森田市長はどういうふうこれを御理解されて、そして現時点の大型事業をやろうとされてるのか、ここが論点だと思っております。質問します。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） 先ほど言われました、いわゆる平成33年以降についての、確かに普通建設事業費というのが非常に、これは事業費ベースで19億円、18億円、13億円という形になるように、見込みではなっております。これは、先ほど私、申し上げましたように、いわゆる将来にわたって住民のサービスの一定の確保をするということが大事だということを申し上げましたけど、確保できないだろうということで、今、これを約30億円にするという形で、試算のやり直しということで、今、事務方に作業をしてもらうように命じております。

そういうことも含めて、申されますように、将来にわたって、今の計算でいきますと、非常に不安も残る可能性がありますんで、先ほど申し上げましたように、大型事業云々というのは、また個別としてありますけれども、全体的な将来にわたっての見直しということをやっぱり考えていかなきゃならんだろうということで考えておりますんで、そういうことで答弁とさせていただきたいと思っております。

○議長（浅尾静二君） 16番実藤輝夫議員。

○16番（実藤輝夫君） 話が普通の場合に、財政の話で行きますと、将来展望を出していきますと、きちんと2つに分けにゃいかん。連動してるんですけどね。一つは、やっぱり事業をしていくという、私どもの将来の朝倉市をつくっていくためには、ここにいっぱい

出してますけどね、資料を、市から渡されたのを。これが一つ、それが基金がどんどん少なくなっていくよと。それは剰余金とか特別何かがあったときに特定目的基金ちゅうのが出てきます。ここは私たちが将来、地域振興をしていくための基金です。特別にこれを出しますと、地域振興基金が16億5,000万円が8億5,000万円、半分以下になりますね。公共施設等整備基金、これは公共施設に使っていくんですけど、7億9,600万円、スポーツ振興基金が2億1,000万円が1,300万円なんですよ。スポーツ振興、先ほどから言ってますけどね。それから、まちづくり振興基金が21億円、これは特例債の上積みですが、これが7億8,000万円、3分の1になります。

こういった状況を踏まえた上で、皆さんが、私ももう69歳ですけども、皆さん若い人たちもおります。将来、朝倉市を担っていくんでしょ。こういう問題が議会の中で論議されないということ自体が私はおかしいと、いつも全員協議会の中で言っています。特別委員会をつくったってね、これは本来、将来の朝倉市の財政はどうなるのか。これをやらなかったら、市民に対する、特に子どもたち、孫たちにツケを回していくわけですから、こういった問題を私は指摘しています。

もう一つ、基金の問題は、先ほど同じ、重複しますけども、分けて考えなきゃいけないところもあります。一つは、財政が10年の一本算定がえで5億円の減になるというのが一つです。その調整もしていかなくちゃいけない。

もう一つは、国保特別会計が5億9,000万円の累積赤字を出している。これはどこかの時点で解消しなければならない。これを一般会計の財源から出しますか、5億9,000万円も。どこかの基金から取り崩さにゃいかん。通常であれば財調基金ですよ、普通でいけばこれが常識です。財政をやってきた人間からすると、これは当たり前。そうすると、38億円の中からまた引いちゃうと、30億円ちょっとですよ。10年間で単純に、そりゃ当然、先ほどから話がありますように、見直しをする、ならんようにする、当たり前の話です、そんなものは。どこの会社だってやってる。家庭でもやってる。

ただし、そういう危険が、不安があるということを前提に置いて運営するんですよ。企業がそれをやらないところは全部つぶれてます。今、物すごい栄枯盛衰ですから、業界は。市長は首長ですよ。社長がトップになって今やってます「カンブリア宮殿」、その他、テレビでどんどん放映されてる。そういった状況の中で、財政的な見通しも厳しくなる。基金はどんどん減ってくる。このような状況で本当に大型事業を54億円も足りないような形で、それを先ほど市長は言った、縮小する、これは当たり前のことで、じゃ10億円、20億円、今の計画で減りますか。根本的に見直しをしていくという態度を私たちはとらない限りは、子の将来への基金の確保、そしてまた、最後のほうに述べますが、振興のための事業、財源確保はできないということです。これについて、再度また次に展開していきますが、市長、どう思われますか。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） 実藤議員、将来を大変憂慮していただいておりますということは理解できます。

先ほど申し上げましたように、いずれにしても、10年先ということに鑑みますと、10年先、ならんか、六、七年ぐらい先になると、非常に大変な状況になるということになって、私も認識しておりますので。今言われましたように、申し上げましたように、事業等について含めて、今後、随分検討していかなきゃならんという思いであります。以上です。

○議長（浅尾静二君） 16番実藤輝夫議員。

○16番（実藤輝夫君） さて、今度は個別にやっていきましょう。庁舎、ここに出されてるのが60億円、朝農道路52億円、これはインフラ整備が他事業に入ってますので、この出し方が、いつも思うんだけど、先ほど60.6億円とありましたよね。あれはインフラ整備も入ってるんですよ。今度は別の資料で見るときには、これじゃなくても、たしか五十何億円で出てきました。そこあたりが非常に理解しにくいんじゃないんですか、私、しにくいです。また述べますと、秋月小中一貫校が、これは17億4,000万円という事業費になってますけど、この前出されてきた、これ全協に出されたんですよ、11月に。これでは20億円になっています、20億円ね。教育委員会と話をしたら、その中の約5億円近くは、現在の秋月小学校の修理等のほうにかけると。だから、5億円入ってる。それでも15億円ですよ。じゃ皆さん、特例債はどれくらいそこに使うか、わかりますか。20億円の計算でいくと14億円という資料が出てきてますね、ここに。これはこの前、11月にもらった資料ですよ。今度はそれを外して15億円の計算、11億円入るんですが、問題は、先ほどの特例債が100億円使うんです。事業は200億円あるんです。さあ、皆さんどう思いますか、これ。全部使っていいんだって。どれに使おうと自由。そうすると、事業が出てくるたびに、この特例債を使います、これ特例債で使います。単発で事業計画を私たちが見ていくときには、特例債を使うから32年度が一番最後、ここまでにしないといかんから、早くやれ、早くやれって、こういう話で全部来ました。市庁舎に対しても、どれだけ時間かけてやったんですか、私たちは。よそから聞きますと、10年、20年、少なくとも5年、基金を入れて、そのための庁舎基金をつくって、そして場所を探して、中身を検討して、いろいろやった上で市庁舎はつくっています。私たちのところに提起されたのは、27年の何月ですか、具体的に言っていくと、耐震問題から出てきますから、約2年ですね。それでもどんどん進んでますよ。体育館については、先ほど言ったように、私は体育館建設そのものを全く否定してるわけじゃありません。

ただし、全協でも述べましたように、現在、太宰府で34億数千万円、それから春日市で54億円、57億円ですか、もっとかかるそうですが、の体育館が建設。それから、久留米へ行きますと、県との関係で七十何億円かぐらいで今、造成をやってます。それから、資料をもらいました、ここにありますが、ほかの市町村もやろうとしています。この中でお金があつて、将来が展望できるんだったらいいけど、37億円近くの県大会ができるような

ものをこの朝倉市がすべきなのか、これはすべきという考え方からいったら、その中身について、そこだけをとれば否定することはありません。できればいいものがある。県大会どころか、国体も呼べるものがある。そりゃそうですよ、お金があれば。みんな、そうでしょう。家庭内でお金を持つてる人は、ちょっと手挙げてくださいよ。私、こんなものをつくりたいと思っても、お金がないとすれば、子どもたちにも、周りにも、我慢してくれよと、こんなところで行こうと、みんなが納得しますよ。そういう状況が、この一つ一つをやっていくときに、市庁舎もそう、特別委員会をつくって、市民の皆さん、19回やって、そして場所選定は、今のとこに結果的になりました。

ところが、どれくらい平米数を必要とするかって。最初、1万平米もあったんだけど、9,600平米、8,400平米、数字だけ言うのでわかりにくいと思いますけどね。要するに、本庁をここに持つてくるということで、9,600平米が市長から提案されました。議会は、農林商工部は、しばらくの間、今の所に置いとこうと。そのかわり、8,400平米でつくりますよという結論を出したんですよ。

ところが、今、粛々と9,600平米で行われてる。人口も減ってくる。職員数も減ってくる。今のスペースは非常に厳しい。こういう論議を本当やったんだけど、大型事業で、先ほど54億7,800万円という数字が出る。プラスアルファにしたら約60億円弱になります、これは。専門家にも聞きました。もちろん、市長が言うよりも、1平米50万円は下げますよ。それ下げることが可能です。でも、ぼーんと下げない限りは、この基金というものを取り崩してまで、そんな大きなものをつくる必要があるのか、これが私のテーマです。このお金を杷木も、杷木の人と話してますと、何とか浮揚させてください。朝倉もこの前、飲みましたら、そういう話が出ておりました。全部、地区に行きますと、自分たちの、この前、議会報告会のときに、名前は言うたらいかんから、5番議員の地区に行きました。馬田、ぼんぼん出ましたよ、地区の要望が。そういうのがこの中にルーチンでやっていくんでしょうけども、まだできんのかと。これね、後とこにつながっていきますので、もう時間との関係もありますからね、ふるさと課からね、これ資料をもらいました。27年、28年にコミュニティ協議会会長名で、ここに要望書がざっと書かれてるんですよ。相当時間がかかりました、読むのに。これ読むだけで大変です。これ27年、このページ、この字数。全部各校区の要望が出てます。大体、環境整備事業がほとんどですね。それにプラスアルファもあります。それから、これ28年度も出てます。今後も出るでしょう。回答は、ほとんど市がやるものは少ない、できたというものは。できません、できませんんですよ。この回答書ちゅうのがここについてるわけですね。回答ちゅうのがありまして、これは県事業との関係もあります、確かに。

ところが、非常に私はよう朝倉市のコミュニティ協議会、会長だけじゃなくて、我慢強いんだなと思いますね。毎回、何回も同じようなテーマが出てきますから。これは、先ほどから私は大型事業を見直せという、その財源をこの人たちのために使って、この人じ

やない、この地区のために使う、これが本来の、後で大きな施策もやりますから、御安心してくださいね。私が言ってるのは、私たちが市議員としてやっていかなきゃいけないのは、財政をきちっと立て直して、予算を自分たちの、朝倉市市民のために使えるものをどうやって確保し、住民サービス、先ほどから何回も言われた、低下させちゃいかん。そのとおりじゃないですか。低下させないために何をやる。これを読みますと、何が書いてありますか。地域住民の皆さん方の御尽力をよろしくお願いしますというのが7割、この書いてあるのが。

でも、この中で問題になっているのが一つある。一つは、高齢化しましたと。私たちは一生懸命溝掃除、しゅんせつ工事、いろいろやってると。ところが、年々年をとっていく人が多くて、その人材を確保するのができなくなってきた。コミュニティの皆さん頑張ってください、一緒にやりましょうということにも非常に限界が来てるというのは、これを読みますとね、切実に伝わってまいります。私の今のこの話でうーんちゅう人がおったら教えてくださいよ。そこに行きましょうや、コミュニティの人たちと話をしましょう。こんな状況ですよ。あなたたちの要望が100%できないはずはないと、私は思っています。そのためには、少なくとも今の大型事業を54億円もオーバーするような、せいぜい50億円としときましょう。それくらいの金でも非常に厳しい状況になってきています。

2項目めですが、この地域の振興対策と財源についてと出しております。今もう既に私は今の話をいたしました。市長、あなたにとってね、いろんな夢を語ることも、私も同じですけど、それと同時に、地域の人たちの悩み、そして要望、これをかなえていくということのも大きな行政の市長の仕事だと思いますが、いかがですか。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） 当然、地域の皆さん方、コミュニティから、これは提案という形で上がってきております。それについても私も目を通させていただいております。

そういった中で、確かに県の関係等が相当多いわけですけども、その中で市の事業にしても、なかなかできづらいというところも確かにございます。今言われた、いわゆる高齢化して地域の溝掃除ですとか、川掃除がなかなかできにくくなったということは、年々多くなってきております。

これについては、これは単独のことというよりも、市全体で考えなきゃならん話だろうというふうに思っています。ですから、ここについては、そういった返事は出てないというふうに思っています。

ですから、そういうことも含めて、当然、私どもはやるべきサービスというのは絶対やらなきゃならんわけですけども、じゃ各地区から上がってきたものを全部やるというわけにもいかないということも御理解いただきたいというふうに思っています。今言われました、わかっという話ですけども、今言われました、何でもやれと、100%やれというふうに聞こえかねませんので、そこらあたりはきちっと押さえておきたいというふうに

思います。

○議長（浅尾静二君） 16番実藤輝夫議員。

○16番（実藤輝夫君） 市長、私ね、こんなこと言うとおかしいですけど、7期目なんですよ。31歳のときからなって、あなたは次の期に来られましたけども、長年ずっとやってきましたから、何でもかんでもやれとか、そういう話があるわけがない、するわけがない。

しかしながら、私が言いたいのは、こういった地域の要望が一つでも多く財源を確保して、住民の皆さんが喜んでくれるようなことにはならないのかなど。今のまま行っちゃると、ますます、先ほど示したように、投資的経費も財源がありませんから、基金取り崩しだって限界がある。それで今後、5年、10年先、皆さんどういうふうにして要望していくんですか、市の中に。これ見てください、これ読んでくださいよ、皆さん自分たちのところから出てるんだから。私も甘木のほうは余り出してなかったから、要望も余りなかったんですけどね。今回も1つだけです。1つだけ出てますね、駐車場問題が。それぐらいなんですけども、よそのところはたくさん出てますよ、ばーっと、これ。だから、それを実現していくために、全部ではなくて、一つでも一つでも多く、毎年毎年プライオリティー、優先順位を決めてもいいですし、ここに書いてあるのは、道路問題だったら、もう2年、3年、相当な面積ですので、できませんという話です。それは、現在建設課のほうに聞いたら、着々とやってるということなんですけども、やっぱり優先順位というのものもあるんだと思うんですけども、やっぱりそういう要望に応じていく必要はあるんだろうと。

先ほどちょっと言い忘れましたので、特例債の使い方、これ市民の皆さん、よく聞いてくださいね。特例債が100億円、今残ってますね。これね、今の大型事業は全てできるんです。昔と違って、特例債の運用幅が広がりましたんで、特例債は使えます。そのとき、全て示してこられるのが、ちよろちよろなんですよ、この資料。いいですか、庁舎に19億円、60億円ですよ、それから朝農が36億円、秋中が11億8,900万円、他事業が70億円に対して45億円、全部入れてね。そうすると、1カ所にばっとやることもできるんです、これは。というふうに副市長は、特例債はこの範囲であれば、どれに運用してもオーケーですと。ということは、せかさされる部分と32年、32年ちゅう全部入れれば、特例債を使わないかんとなるわけだから、皆さん、わかりますか。特例債を分発して全部ばらばらばらってしたら、全部その事業は32年という期限があるところで使っていかなきゃいけないということになるわけですよ。

ところがね、運用次第ではそうではないんじゃないかって。こりゃ後でいろんな、私の後にも秋中問題の事業が出てきましようが。こういう運用の仕方によっては、きょうはそのために私、一般質問してるわけじゃありませんから、市庁舎も、朝農も、この秋月中学校の問題も、それから他事業の問題も、こういうふうなお金の流れ、そして、ここが問題なんですよということをぜひぜひ御理解いただきたい。しつこいぐらいに同じことを言いますから、一遍でわかっていただければ、それはありがたい。なかなか職員の人に聞いて

も、十分に理解してる人は少ないですよ。知識の共有をすべきです、職員の中にも。もちろん、議会側は100%知っておかなきゃならん。そして、それを市民の方には是非を問うていく、こういうのが私たちの仕事ですよ、役割。

今言ったように、特例債がそれぞれの事業に満額できる、あるいは分散してやれるということでもあるとすれば、こういうやり方に固執する必要がどこにあるのか。皆さん、庁舎が19億円の特例債っていうのを知ってましたか。私、知らなかったですよ。これ満額特例債を入れますとしか書いてませんから、副市長。ですよ、金額は出てきてませんよ。

しかし、これも一つの試算です。いろいろ試算が出てきてます。とするとね、私、これをやりながら、狐につままれたような感じになります。これは市が悪いとか財政が悪いとか、そういう話じゃありません。要するに、個別の問題をねちねちやったところで、ああでもない、こうでもないという話に終わってしまう。だから、きょうは、一つ一つに物すごく、私、資料を持っていますから、やろうと思えばやれるんですけども、きょうは全体像をしっかりと把握しましょう。もう一回言いますよ、事業費がこれから見込まれるものが200億円、現在、特例債が90億円使いまして、残り100億円。100億円を特例債としてその事業は使っていきます。その事業は、庁舎、朝農、秋月小中一貫校、他事業というのが目玉です。これに使っていきます。

しかしながら、国庫補助、特例債、一般財源を投入しても54億円足らなくなるという試算です。40億円が基金、先ほど言ったような虎の子の基金をどんどん使っていくということです。そして一般起債を起こすことによって、よく議員の皆さんは検討されたと思いますが、試算表1と2の違いが出てきます。どちらをもとにしてやるかというのも、ちゃんと自分が質問する、あれは考えていくときに知っておかなきゃならん。これもこの試算表2が、現在の時点では、普通常識的になるだろうというふうに、私の知識では判断しています。非常に厳しいということです。これが前提となってまいります。

もう一つ、先ほどから他の事業の問題が出てきてました。皆さん、地域の問題もさることながら、もう一つ、私たちが期待をされるといいますか、大事にせにやいかんのが、地方創生事業ですよ。地域の一つ一つの事業をどうするかではなくて、これから先、地方創生としてどうやっていくのか。ことしの初めに、朝倉市総合戦略というのが出されました。この中に人口ビジョン、人口減少問題の克服という大きなタイトルの中に、これ市が出されたんですが、いろんな朝倉らしい取り組みをしていきますと書いてありますね。この中で具体的な話になってきますと、特色を生かしたいろんなことが出てまいります。子育ての支援の問題だとか、あるいは後からもどんどん皆さん方から質問が出るでしょう。この質問が出てくる項目を見ましたら、それをやりますと書いてあります。やらないかん、取り組んでいきますと書いてあります。でしょう、いいですか。CCRCの問題も書いてあります。福岡都市圏などへの通勤・通学の利便性の向上、先ほど出たようなものも、総論ですから、具体的にこれをやっていかんやいかん。幾ら金がかかるといいますか、これ。

先ほどの、全部やるということではないですよ。でも、朝倉市の目玉一つにとっても、ちよろちよろやるよりも、朝倉市の目玉はこれだ、日本全国に打って出る、これをやるんだという特徴を持ってやったとして、5億円から10億円ぐらいの金を投入しないと私はだめだと思ってます。それを全部やるということは不可能でしょう。でも、これはあくまでも私たちに出す人口ビジョン、総合戦略の全体像ですから、そういう考え方なんですよね。

ところが、これを具体的にこれからやりますという話なんです。この話は、ことしの1月にこれを出された後、全協にも、これ1月ですよ、28年の1月19日にこれ出されてますから。間違いないですよ、市長、大丈夫ですか。（「はい」と呼ぶ者あり）きょうは12月の9日ですよ。そういう論議は、具体的に全協ではその後、大きくはなされていません。僕は市長に聞きながら、堀内副市長の顔ばかり見よります。なぜかわかりますか。彼は私たちの朝倉市の宝だと思う。本当に財政をぐっとやってきて、そして部長を経験してきて、今は副市長です。変な褒め方じゃありませんよ。非常に私も健康を心配していますが、ずっとやってきて、知り尽くしていると思ってるから、でしょう、でしょうという言葉を使ってるわけですよ。いつもうなずいてもらっておりますので、質問しませんから。

これをやらなかったら、朝倉市の将来は暗いんじゃないですか。人口移入、そういう面で、秋月地区だけではない、甘木地区だけではない、朝倉地区だけではない、杷木地区だけではない、それぞれの地区で知恵を絞ってまちづくり、むらづくりをしていかにやいかんですよ。その中に少子高齢の問題、特に生徒数減少の問題、あるいは地域のむらおこしの問題、こういうのが提起されてくるんだと私は思っています。

そういった面では、幾ら夢を語ったって、お金がなけりゃできない。教育長、そうでしょう。いろんな人と話したら、教育として、あれもしたい、これもしたいと思うけど、質問しませんから大丈夫ですよ。もう質問しても、だって回答は決まってるから。そうですよ、私が教育長、教育委員会だったらそうですよ、私も教育に対しては情熱がありますから。でもね、ソフトの面でできるものと、ハードが必要な面もできます。僕は教育長とも、今度秋月博物館ができますけども、それ以前からふるさと人物誌を協働でつくってやったり、あるいは子どもたちのためにふるさと人物の学校編をつくりました、私が委員長で。そういう形をやりました。これからは、宮崎教育長やら、その他朝倉市にも郷土史家がおりますので、その人たちが集まって秋月博物館を中心に。だから、この前、館長問題もここで9月にやったわけですけどね。それはきょうは置いときますが。

だから、いろんな夢があると。そのときにお金が要るものもある。箱物もそこで必要なものも、改修せにやいかんところも出てきます。この前、私は、ここで水の文化村の将来を市長にも問いました。これから先、漏れ聞くところによりますと、県との交渉にも入っていくというようなことも聞いておりますので、修繕が先ですけどね。ソフト・ハードはまたこれからでしょうけども。

そういったことを考えていったときに、どれだけ金があっても、夢を膨らませれば膨ら

ますほど足りないんですよ、金が。本当私ね、幾つもあります。ここの課長とも、私が一般質問する関係で、教育委員会等も行きましたけどね、みんなとどうやったらいいんだって。しかし、金が要りますよ、やっぱり。人材確保にも要る。物を修繕する、あるいは呼び込む、これにも金が要る。それはたかがありますからね、多い日、少ない日が。だから、そういったものを一番最初に私が提起したように、財源をそっちのほうに使うべきであって、何でもかんでも今のような計画でやっていいのか。数字を出しましたから、一般総論ではない、こんな金額が出ていくということを私たち議会人、少なくとも私は、認めるわけにはいかない、こういうふうに昨今思っております。将来の子どもたちにツケを回さないというためには、100万人とも我行かんというような気概で、先ほど言いましたように、気力、体力はまだ充実してますので、市長、ここで私が今、長々としゃべりましたが、市長の見解をお聞きしたいと思います。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） 実藤議員が言われたことについては、私も同感するところが多々ございます。

ですから、先ほど申し上げましたように、いろんな大型のが、たまたまこの時期に重なってきたということ、これについて申し上げますならば、朝農の跡地についても、もう既に校友会から寄附を受けることが決まっておりましたし、あれを、かつ有効的に使うならば、県有地も買わざるを得んという形の中で、たまたまこの時期に来た。庁舎についても、はっきり出したのは、私は2期目の最初ですけれども、恐らく議員の皆さん方の中には、もう早う庁舎を考えたほうがええばいという思いは、早い時期からあったんじゃないかなど。しかし、残念ながら、表に出てきたのはここ数年だということです。ですから、ここに重なったということになるかと思えます。

しかし、その上で私はそれを追求したいと思っております。ただ、言われるように、私も申し上げましたように、将来の朝倉市に対する住民サービス、いろいろなことについて支障が出るようであれば、それは当然今から考えを精査してやっていかなきゃならないという思いは持っておりますので、そういうところは御理解をいただきたいというふうに思います。

○議長（浅尾静二君） 16番実藤輝夫議員。

○16番（実藤輝夫君） 個別の問題を論じると、やっぱり全協で議員の皆さんから質問があつてるように、個別の問題ばかりに入っちゃうんですよ。私は、きょうもね、市長は私が示したこの資料、市からもらった資料に基づいて、これだけの足りない部分できて、そして虎の子の基金を取り崩したり、一般起債でもって処理するということについて、後に地方創生の総合戦略事業あるいは地域からの要望、これをどうバランスをとってやるのか。私は、これは不可能だと、一時的にはできても、基金取り崩しで、誰が市長になってもできますよ。しかし、将来的に考えたときに、金がないというのがわかって、漠然たる不安、漠然たる不安じゃないですよ、はっきりした不安を今、示してますね。収入が、

じゃどう出てくるのか、あと5分ありますからね。市長、これはいきなり聞きで、知らなかったら知らないでいいです。今、ふるさと納税が今年度11月末で幾らぐらいになってるか、御存じですか。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） 1億7,000万円です。

○議長（浅尾静二君） 16番実藤輝夫議員。

○16番（実藤輝夫君） 1億7,000万円ですよ。市長は、これことしの4月のときに、高らかと私とやりとりしながら、趣旨が違うの何のってだったんだけど、26年度からはやる気になって、27年度は2億円を超えましたよ。いきなりぼーんと超しちゃった。それまでは三十何万円とかだった。そして、そのときに、市長、ここでまた副市長からも出た。目標、総務部長、幾らだったですかね。目標、幾らですか、はい、気合持って。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 3億円でございます。

○議長（浅尾静二君） 16番実藤輝夫議員。

○16番（実藤輝夫君） 今ね、その話ですよ。先ほど財源確保っていう話をいつも私、してますね。どうやったら増税できますか、今。増税して市民喜びますか。はっきりした目的税だったら、まだまだでしょうけど。今ね、あちこちへ行って、私、この前、行政視察もそうでしたけど、ふるさと納税は幾らぐらいですかって聞いてますね。今までやってなかったところが、大体1億七、八千万円から2億円になった、一気に。それで、これが県同士の話になると、同じような朝倉市と山間地にあって、6万の人口で規模も一緒、これが去年が32億円。よそに行って話を聞く。

だから、この中身のよしあしは、市長はいつも言うから、そりゃ趣旨が違うとか。でも、私からすると、ふるさと納税が入って、それが市のために何か使えるのがあるんだったら、ふるさと納税を伸ばしましょうやと。そして、そこに何がいいとか悪いとかちゅうのもあるかもしれないけど、喉から手が出るほど、これ市民の税金を取るわけじゃないんだから、よそからの寄附です。これについての制度趣旨はいろいろあるから、これについては、私は、市長は今度の3億円という、ことしの4月のときには、高らかと目標3億円ですという形で言われてるし、よそでもそういうふうに使われてる。

ところが、現在時点で、もう冬場ですよ、冬場。1億7,000万円が2億円に到達するかどうかわからんというような状況で（発言する者あり）少し上がってます。じゃ、またどうぞ。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） 1億7,000万円です。ただ、昨年もそうでありましたけども、税金の精算の関係で12月が物すごく多いんです。昨年は12月だけで約1億円。そういう状況です。それと、昨年からどこの市町村も多くなったちゅうのは、やっぱり税制の問題、こ

れも大きいと思うんです。それともう一つ、私が趣旨が違うという話をしましたが、やはり基本的には、やはりふるさとを応援するという趣旨があるだろうと。やっぱりその節度の中でやっていかなきゃならんという思いで申し上げておりますので、趣旨が違うとか、そういう端的な話じゃないです。

○議長（浅尾静二君） 16番実藤輝夫議員。

○16番（実藤輝夫君） 議事録を見ればそうなってるから、いいんですけどね。

いや、何が言いたいかという、先ほどから歳入と歳出の問題を取り上げ、そして大型事業というのが入り込むことによって、これだけ厳しい状況が出てくるんだと、そのツケが地方創生、総合戦略の事業にも、地域の要望にも支障を来す可能性が大いにある。その中で少しでも財源を確保していくためには、虎の子のふるさと納税を伸ばすべきであると、一貫して3年間、ここで述べてまいりました。今後、時間の関係で、これぐらいにいたしておきますが、皆さん方も、現在の特例債の状況、事業の中身、それから基金の問題、一応おわかりいただけたものと思っております。

しかしながら、私は、これがわかった上で、この事業を安易に進めていくということには承服しがたい。やっぱりいろいろな考え方の人がいるかもしれませんが、将来の財政を子どもたち、孫にツケを残さないために、私は、この大型事業の見直しをしていくべきというふうに結論づけております。時間も参ったようですので、市長はこれを粛々とやるということでございましょうが、私は市民に訴えながら、これでいいのかということを提起しながら頑張っております。

これで終わります。

○議長（浅尾静二君） 16番実藤輝夫議員の質問は終わりました。

午後1時10分まで休憩いたします。

午後零時9分休憩